

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）  
分担研究報告書（令和2年度）

高齢者がん診療指針策定に必要な基盤整備に関する研究

研究分担者 唐澤 久美子 東京女子医科大学放射線腫瘍学教授

研究要旨

高齢者がん放射線治療に関し、「高齢者がん医療Q&A」総論の放射線治療の項を編集執筆し、各がん種における放射線治療の現状を「高齢者がん医療Q&A、臓器別編」としてまとめた。モデル事業としての「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言」の放射線療法に関する項目をまとめ、高齢者がん診療ガイドライン、老年腫瘍学テキストブックの作成に着手した。

A. 研究目的

高齢者がん医療における放射線治療の有用性を明らかにし、その有用性や限界を周知させ、診療指針策定に必要な基盤整備を行う。

B. 研究方法

研究班、高齢者がん医療協議会の協働により、高齢者がん放射線治療に関する診療の現状、課題、これまでのエビデンスを収集・解析し、日本放射線腫瘍学会の研究協力を得て「高齢者がん患者のQ&A」の部位別の各論の放射線治療に関する記載を完成させ書籍として発刊する。その研究成果から高齢がん放射線治療に関する問題点を抽出し、放射線腫瘍医と関連する診療科医師で放射線治療ワーキンググループを結成し、モデル事業としての「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言」の放射線治療に関する記載を完成して公開する。高齢者がん診療ガイドライン策定委員会、老年腫瘍学テキスト作成の準備を行う。

C. 研究結果

放射線治療は、臓器機能低下や併存症で脆弱性が増している高齢者にも施行可能で、高精度放射線治療（強度変調放射線治療、画像誘導放射線治療、定位放射線療法、粒子線治療など）により安全性が増していることが確認できた。放射線治療に年齢制限はないが、組織や臓器の加齢性変化を考慮して、照射範囲を病変部に限局させ予防照射領域は取らない治療も行われていた。

「高齢者がん医療Q&A、各論」の放射線治療について分担して執筆し書籍として発行した。

「プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言」の放射線治療に関する記載項目を執筆し論文投稿中である。

D. 考察

高齢化が進み、高齢者に対する放射線治療の適正化のための指針作成は極めて重要と考えられた。

E. 結論

高齢がん患者に対する放射線治療の指針作成の基盤が整った。

G. 研究発表

1. 論文発表：なし（投稿後査読中）
2. 学会発表

「高齢者がん診療ガイドライン策定に向けて～プレフレイル高齢大腸がん患者のための臨床的提言」コンセンサスマーケティング

司会：田村和夫、唐澤久美子  
第58回日本癌治療学会学術集会、2020年10月22日、京都市

3. 書籍

高齢者がん医療Q&A、臓器別編  
金原出版 2020年

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし